

# 大手プロバイダーのウェブ・メールの活用方法

2012-10-4

今回のテーマは、大容量化で利用価値が向上した大手プロバイダーのウェブ・メールの活用方法です。

I ウェブ・メールは、ホームページを見るブラウザというソフト(インターネット・エクスプローラーやクロームなど)から利用するメール・サービスです。

IDとパスワードを使えばどのパソコンからでも利用できるウェブ・メールは、パソコンの故障対策等々からして、なにかと便利なサービスです。

II スマート・フォンの時代への対応として、昨年から、ビッグロブ、ぷらら、ニフティなどの大手プロバイダーがウェブ・メール機能を大容量化等で充実する動きが顕著です。

例えば、ビッグロブは、ウェブメール・ボックスの容量を、100MBから5GB(5000MB)と50倍に拡大しました。

その他、ニフティは5GB、ぷららは2GB、goolは2GB、OCNは1GBといった具合に拡大しています。

(なお、JCNコアラ葛飾のkoalanetのウェブメール・ボックスの容量は100MBのままです)

自分が使っているプロバイダーのウェブ・メールの仕様をプロバイダーのホームページで確認してみてください。

III 大容量化したウェブ・メールの利用価値

最大のメリットは、パソコンの故障対策です。

(1)メールのバックアップに便利。

ウェブ・メールがこれだけ大容量化すると、メールのバックアップ機能に役立つ存在になります。

受信メールを、パソコン本体のメールソフトとウェブ・メールに並行して保存する利用法を使って、メールのバックアップ処理が簡単に実現します。

ダブル利用体制にしておけば、パソコンの故障時や買い替え時に困りません。

(2)出先でのメール利用が可能。

勤務先や旅行中のホテルのパソコンからメール利用が出来る。

(3)タブレットPCやスマート・フォンやテレビでのメール利用が可能。

(4)ウィルス・メールの危険が現実化した際、ウィルス対策をウェブ・メールで行うことにより、ウィルス対策処理作業の危険を自分のパソコン本体から隔離して空中戦で処理できる。

具体的には、受信拒否設定等(ブラックリストへの登録作業)をウェブ・メールで行うことが出来る。

IV プロバイダーの大型コンピュータに、各利用者の送信サーバー、受信サーバーがある。

従来の通常の設定では、メールソフトの送受信操作により、サーバー内のメールは払い出される。

これは、ウェブメール・ボックスの容量が100MB程度と小さい時代の対応です。

ウェブメール・ボックスの容量がGB単位と大容量になれば、対応が変わります。

VI 自分の使っているプロバイダーが提供するウェブ・メールを確認

プロバイダーによっては新旧のウェブ・メールが並存

(新しいウェブ・メールには登録作業が必要な場合がある)

## VII ウェブ・メールの利用環境を整える

### 署名設定

アドレス帳整備(エクスポート、インポート機能が使えれば簡単)

便法として、アドレス一覧表を掲載した受信メールを利用

裏技として、アドレス一覧表を掲載したメールを下書きに保存する方法がある(下書きは送受信の影響を受けず、ずっと残る)

## VIII ダブル保存のためのメール受信設定の変更

メールソフトの設定で「サーバに残す」ように設定する。

\* 下記設定方法の質疑応答方式の説明はOCNメールの例です。

Q ブラウザとメールソフトでメールを見えています。メールソフトでメールを受信すると、ブラウザで閲覧する際、過去のメールが消えてしまっていて不便です。

A メールソフトのメール受信の設定で「サーバに残す」という設定を行ってください。そのようにいただくことで、メールを貯めておくことができ、ブラウザや携帯ですべてのメールをご覧いただけるようになります。